

## 地域とつながり地域に学ぶ

～愛媛大学社会共創学部だより～

### well-beingな 人と出会うゼミ

愛媛大学社会共創学部  
産業マネジメント学科 3回生

篠原 悠希



今回、well-beingというテーマをいただき、改めてwell-beingについて調べました。その結果、私なりにwell-beingとはやりがいを持って心も体も健康になることだと感じました。調べるうちに、「あれ、私、well-beingを実現している人に会ったことがあるー」と思いました。

#### 価値観が変わった2年生の夏

思い返せば、2年生の夏、本来は夏休みが終わった後にゼミに所属することになっていたのですが、なぜか夏休み中に九州に連れて行かれました。まだどんな人たちかよく知らない同期や先輩、先生方と一緒に、3泊4日のフィールドワークに参加することになったのです。とても不安でしたが、その中でため

になる話を聞いたり、ゼミ生や先生と距離を縮めることができたりして、今では連れて行ってくれたことに感謝しています。  
フィールドワーク中に、『高校生がつくる水俣食べる通信』に掲載された方々とお話することができました。特に印象に残った言葉は、モンヴェール農山を運営している農山文康さんの「山を育てるために豚を飼う」という言葉です。モンヴェール農山では、森の中で豚を飼い、肉や加工品を販売しています。豚を育てることで得た資金を山の保全に



ゼミの仲間たちと

充て、また豚の糞尿を肥料として山に返すことで、木々が成長し、地下水も豊かになります。これにより、山とつながっている海の環境も改善され、農山さんの活動が水俣の環境を良くすることにつながっているのです。このように、豚を育てること得た資源を山に還元し、エコシステムを作り出すことで、持続可能な社会を目指しているのです。また、職場自体がエコシステムの中に入ることにより、自然と共存しながら生きる幸せを感じることができます。

#### えひめこうち食べる通信での出会い

現在、私のゼミでは、『えひめこうち食べる通信』という雑誌に関わり、愛媛県と高知県の生産者取材しています。これまで、「参鍋養鶏場」（四国中央市）、「井上葎園」（今治市）、「森のともだち農園」（今治市）、「おんじのしいたけ」（久万高原町）の記事を学生目線で執筆してきました。取材を通して、well-beingな生活をしてい



モンヴェール農山でのBBQ

ると感じた生産者さんは、森のともだち農園を運営されている森譲寛さんです。森さんは大学進学を機に東京でSEを目指していまし



森さんが育てたブルーベリー

たが、お父様が病気で倒れたときにUターンすることを決断し、森のともだち農園を継がれました。森さんはいつか今治に帰りたい、帰るなら両親が築き上げた農園を継がなくてはならないと考えていたそうです。実は森さんのお母様は地元今治ではちょっとした有名な人。最初はお母様のネームバリューが強く、今後どうすればよいか不安な時もあったそうです。しかし、母にしかできないことがあるのなら自分にしかできないことがあるはずと、自分ができていることに挑戦することにしたそうです。最近では、自分で仕事を選びながら実行する事ができたり、挑戦したいことに挑戦できたり、奥さんと時間があるときにランニングをしたりと、Uターンを決断したことににより、仕事とプライベートを充実させ、健康的で幸せな生活ができていたとのことでした。

### 自分だけのこだわりを持っている人々

また、私のゼミには『えひめこうち食べる通信』チームの他にも、松山市三津地区を調査しているチームもあります。三津チームは店主さんへのヒアリングや観光客へのアンケート調査を行っています。2024年6月、三津チームと合同で鳥取県湯梨浜町を訪問し、「汽水空港」という書店と、行商ユニット「フベン」の方々にお話を伺いました。

「汽水空港」を営んでいるモリテツヤさんはもともとおもちや屋の倉庫だった所を月



汽水空港の外観

5000円で借り、やりたかった本屋さんを開き、裏庭で野菜を育てています。「フベン」の中川亮二さん、毛利愛実子さんは生活の中での陶器と彫刻のあり方を考えたり、庭で鶏を飼育したりと、自然に囲まれながら作りたいものを作り続けています。

3人には共通して、儲けるためではなく、やりたいことを実践し、自分たちの生きたいように生きるという意志の強さを感じました。自分のやりたいことに最後までこだわることこそ、自分の生活を豊かにするというところに気づきました。

※ ※ ※

私は安定した職業に就きたいと考え、地元の国立大学に進学しました。私が考える安定した職業とは、収入が高く、週に2日の休暇があり、容易に職を失うことがない仕事です。しかし、フィールドワークを通して安定した職業とは、先ほど述べたような働き方ではないと気づきました。必要最低限の収入で自分のやりたいことをしながら暮らしている人々に話を聞くとみんな揃って、笑顔で日々楽しく生活していることを教えてくれました。生活に必要な範囲の収入、いざ何かあったら助けてくれる周りの人、well-beingが揃うことにより、私が想像していたのとは違った形の安定が存在することに気づかされました。

まずはwell-beingな生活を送るために、自分にとつての幸せや、やりたいこと、大切にしたいことなどを考えてみたいと思います。